



①道路に車を止めて、現場はさらに森林の奥深くへ入っていく ②現場では比較的小さな木の伐採が行われていた。道路に近いところで大きめの木は搬出するため長材にし、小さな木は細かくして集積しておく。ここから出す木はペレットの原料になるという。同社の森林技術員は若手が多いが、「うちの連中のレベルが上がってきたので、この程度の現場だったら難なくこなすよ」と写真の俵山さん



緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine



林業事業体レポートFile07

株式会社 村山土建

【十日町市】



晩秋ともなれば雪が降り始める十日町市の作業現場。常に若手の動きを見て、声かけを忘れない



③チェーンソーを肩に担ぎ、仕事の状況を確認をする ④ひょいっと担ぐ様がいなせに映る“山の職人”。チェーンソーを持ち歩く時、立ち止まって話をする時などは、このようにバーを後ろ側にして担ぐのが通例 ⑤森林環境課を取りまとめる齋木課長。後進の育成に全力を傾ける熟練技術員 ⑥森林環境課の暖はペレットストーブで、お湯も沸かせるタイプだ。林業の将来を明るくする/バイオマス事業だけに、率先してペレットを使っている

林業の重要性から新部署設立
毎年、若い人材を積極採用

十日町市の総合建設業「村山土建」。平成18年に新部署として森林環境課を立ち上げた。自社で管理していた広大な山林を専門に担当する部署が必要になったこと、森林組合を退職した経験豊富な人材の受け入れ、さらに環境保護に取り組む意識が重なり立ち上げに至った。同課の主な業務は、森林整備の他に、土木工事前の準備工としての草刈り・雑木の除去、災害後の山の土砂や倒木の片付けなど多岐にわたる。

林業は投資から回収までに非常に長期間を要する産業であるため、通常の会社経営とは大きく異なる面があり、経営を成り立たせていくのは厳しい。それでも同社は将来を見据えて森の仕事の重要性を認識し、業務を継続・発展させる計画を立てている。森林環境課の社員は7名。そのうちベテランを除く若い社員の多くは新卒採用。若い部署ではあるが、長年の経験を積んだ熟練者がいることは、若手にとって心強いはずだ。取材で訪れた現場でも先輩が若手に近づき声をかけたり、実際にやってみせるなど細かい指導にあたっていた。

Kubota Kyouhei



久保田 恭平 さん

年齢: 24歳

林業経験: 5年

先輩目指して林業のプロに

会社説明会で森林環境課のお話を聞いて興味を持ち入社しました。元々体を使う仕事をしたいと思っていました。数年前、グリーンエキスパート講習を受けて、各種資格を取得しました。林業の仕事は、伐採や枝打ちできれいになった森林を見ると充実感に浸れます。森林環境課はまだ若い部署ですが、斎木課長や俵山さんのようなベテランの方に教えていただけてありがたいです。後輩も入ってきて教える立場でもあるので、手本となるよう頑張りたいです。最近では役所の方と打ち合わせ、現場の森林調査などの仕事も担当するようになりました。将来は我が社の先輩のような林業のプロになりたいと思っています。



Tawarayama Masuyuki



俵山 益幸 さん

年齢: 53歳

林業経験: 30年

技術は本人自ら体得すること

長く森林組合に勤めていましたが、6年前から「村山土建」にお世話になっていました。林業に必要な資格は重機を含めて大体取得しています。組合では主に林産活動を業務にしていますが、こちらに移ってからは林の手入れ、除間伐、小さな木まで構うようになったかな。現場では指導的な立場で、若い社員の面倒を見ている。指導とは「教えて見せてやらせて褒めて指摘して」いくことの繰り返しだけど、やはり木は1本1本違うし、本人自ら覚えてもらうしかないですよ。山は気持ちがいいですよ。木が芽吹いて山菜が出てくる春と、キノコが採れて紅葉が見られる秋は特にね。夏と冬はいるだけで大変だけど(笑)。



緑の担い手

「大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち」

設立6年の若い森林環境課は、主に20代と50代で占められている。親子とも言えるこの年齢差は、絶対的な信頼感を寄せたり教育熱に火を付けるにはちょうど良い。10年後20年後になった時、現在の若手がどのように成長を遂げ、どのような新しい師弟関係が生まれているか楽しみだ。

【事業主コメント】



株式会社 村山土建 代表取締役社長 村山政文

当社では、高卒を中心に若い人を積極採用しています。現場では林業のベテランから実技指導を受けられるし、専門資格も取得できます。経験を積み自信もついてくるはず。若い社員は、同世代と一緒に仕事ができるから励みにもなっているでしょう。林業は自然が相手だから労働環境は厳しいです。高い所に登ったりチェーンソーや重機も扱うから危険も伴います。でもその分奥が深く面白いです。自然の循環を考える上で、森をきれいにすることは大事です。自分の仕事が地球規模で大きな役割を担っているという夢や志を持つことで、やりがいや芽生えてくるはずです。



左から斎木課長、村山社長、金井常務

【事業体Data】



株式会社 村山土建

住所／十日町市山本71番地1 電話／025-752-3721 (代)

設立／昭和20年 資本金／3000万円

従業員数／133人(森林環境課7人)

勤務時間／8:00～17:15 主な勤務地／十日町市

主な従事業務内容／特定建設業・一級建築士事務所・測量設計事務所・森林整備業・産業廃棄物収集運搬業・宅地建物取引業・石油類給油所

Kosugi Daiki

経験を重ね 仕事の幅を広げたい

この仕事を選んだきっかけは、家が農家で草刈りや山の仕事をよく手伝っていたので多少慣れていたということがあります。そういう理由で森林環境課がある「村山土建」を志望して採用いただきました。入社当初は先輩が伐った木の処理や道具の片付けから教わり、段々と木を伐る仕事も教えていただくようになりました。木の1本1本手を抜かず作業することを常日頃から意識してやっています。私は森林環境課で一番の若手。チェーンソーなどの基本的な資格しか持っていませんが、これから車両系などを取得して仕事の幅を広げたいです。早くグリーンエキスパートを受講したいと思っていますよ。



小杉 大樹 さん

年齢: 21歳

林業経験: 2年